

【 会議次第 】

平成28年度 第2回田布施町総合教育会議

日時 平成28年11月21日(月)
午後1時30分から
場所 中央公民館 2階 会議室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

- ・ 町長 あいさつ
- ・ 教育長 あいさつ

3 協議事項

- (1) 学力向上・生徒指導について
- (2) 田布施中学校大規模改修(平成28年度空調設備工事)について
- (3) 平成29年度重点施策について

4 その他

5 閉 会

平成28年度第2回田布施町総合教育会議 会議録

日 時 平成28年11月21日（月） 13:30～14:47
場 所 田布施町中央公民館2階会議室
出席者 長信町長、尾崎教育長、金長委員、櫻井委員、石田委員、谷委員
欠席者 なし
事務局 亀田総務企画課長、 本城学校教育課長、 山本学校教育課長補佐（指導主事）、
山中学校教育課長補佐兼係長、 中田社会教育課長、 中村社会教育課長同格
書 記 堀総務企画課主幹

【開会（事務局）】

1 町長挨拶

平成28年度の第2回総合教育会議ということで、一言挨拶を申し上げます。

昨年4月に法改正があったが、本町では教育長の任期が今年9月までということで、それまで旧制度のままきたわけだが、教育委員の皆様のおかげですばらしい田布施の教育を実践してこられたことに感謝申しあげる。10月から新教育委員会制度となるが、引き続き、より良い子どもの、あるいは成人の教育となるようご協力いただきたい。新たな課題もでてきているが、町民をはじめ多くの方から「田布施の教育はいいね」と言われるようにしたいと思うので、皆様のご協力をお願いしたい。忌憚のないご意見等をいただき、今日の会議が有意義なものとなるよう、よろしくお願い申し上げます。

2 教育長挨拶

さきほど町長からもあったように、法改正により10月1日から信任により新教育長というかたちでやらせてもらっている。それまでは、教育委員の皆さん方の推薦をいただいていたわけだが、今まで一緒にやってきた皆様方とこうして新たなかたちで関わり合い、非常に緊張の思いでいっぱいである。

課題もたくさんあるが、新教育委員会制度に移行したからには、首長さんと情報の共有、特に学力、生徒指導の近況については町長に報告し、事務局をお預かりしている者として重要施策について提言あるいはお願いをしていくことになろうかと思う。

教育委員の皆様には、学校教育・社会教育を含めて、いろいろな取組の中で、町長・教育長に提言していただきたい。

本日は、特に田布施町教育の推進について、事務局の方から説明させていただく。

（事務局） 尾崎新教育長は10月1日から、同じく9月議会で同意を得、石田清実委員が10月1日から教育委員に任命されているので、よろしくお願いする。

* 委員発言：● 事務局説明等：○

3 議事概要

（1）学力向上・生徒指導について（議事進行：町長）

（指導主事が資料にそって説明。）

○指導主事 1.学力向上について

(1) 本町の学力の現状

一番客観的と思われる全国学力学習状況調査の結果を報告する。田布施町の平均正答率と山口県・全国との比較ということで、小学校と中学校の結果を載せている。平均正答率は、小学校は国語と算数の平均、中学校は国語と数学の平均を示している。小学校の全国との比較 +4.7 ポイント、中学校の全国との比較 +5.7 ポイント。本年度においては、小学校も中学校も非常に良い成績であった。

(2) 学校の取組について

①の年2回の検証改善サイクルとして、全国学力学習状況調査（4月に小6・中3を対象）、県学力定着状況確認問題（4月に小6・中3以外の小3以上を対象、10月に小3から中2までを対象）を実施。

②の成長診断テストの推進だが、田布施町の教育の特徴である教育の品質保証として、学力保証、生活保証ということで、年数回（基本的には学期に1回）、学力面・生活面のテストを1か月行っている。昨年度全小学校で行い、これについては、大変成果があがっている。

③のサマースクール（補充学習）だが、夏休み中の学力向上を目指した補充学習として、学習面の補充をさせていただいている。

④の授業改善と公開授業の指導助言だが、次期学習指導要領に向けて、「アクティブ・ラーニング」の視点が言われている。授業の基本的な流れを子供が「見通し」をもって「言語活動」をし、子供たち自身が学び、「振り返り」をしていく。これを今学校で実践している。それから、教員については、各校校内研修の充実ということで、1人1公開授業と、お互いの授業に対して研究協議を行っている。

(3) 教育委員会の取組について

主なものだけ申し上げる。

①の教員補助者の配置だが、町費でみてもらっているが、大変助かっている。

特に、個別の支援が必要な子供への対応ということで、これには大変苦慮しているが、教員補助の方のお陰で、大変助かっており、個別支援が大変成果をあげている。

②の年3回の町学力向上担当者会議というのがあるが、本町の学力向上に非常に効果的に運営されている。

(4) 特別支援教育の充実について

①の施設の充実で、各学校に特別支援学級を設置していただいている。また、小中学校に通級指導教室を設置している。田布施中学校と、小学校は麻郷小学校だが、麻郷小学校は昨年度までは指導教諭が柳井と兼務であり週2回しか開設できなかったが、本年度から常勤でついてもらっており、毎日開設している。

②の町関係各課との連携について、町保健センターや町民福祉課との情報交換など連携を強化しながらやっている。

(5) 本町の学習面での課題について

①の家庭学習の充実で、子供によっては、平日や休日の学校の授業時間以外での学習時間で、2時間以上学習する児童生徒の割合は全国と比べて低く、課題である。

②の学力低位の児童生徒の補充学習について、学校では、成長診断テストを実施しているが、学校の教員だけではなかなか難しいところがあり、地域の協力による人的支援を必要としている。

③の読書時間の確保について、学校の授業時間以外に30分以上読書をする児童の割合は全国と比べて低く、生徒の割合は全国と比べてやや高い。本年度から、田布施町の図書館が実施している読書貯金通帳の利用を大いに期待している。

2 生徒指導について

(1) 本町の児童生徒の現状について

生活態度についてどの学校も、今非常に落ち着いた生活態度、授業態度でやっている。

(2) 本町の児童生徒の問題行動調査結果について

これは、県または国に提出しているものである。これも26、27、28年度について紹介したいと思う。平成26年度、小学校では、不登校2、いじめの認知数4、暴力行為はゼロだった。中学校については、不登校16、いじめ2、暴力行為4件ということだった。(斜めの数字で書いてあるのは、一応県の数字を載せた。)27年度は、不登校については、小学校3、中学校17、いじめの認知件数については、小学校4、中学校15、暴力行為については、小学校2、中学校2となっている。28年度はまだ終わっていないので、7月末現在(1学期)の結果だが、不登校が小学校で6、いじめはゼロ、暴力行為もゼロ、中学校で不登校が13、いじめが5、暴力行為が3ということになっている。また後からでてくるが、特にいじめについては、新しい傾向として、ネットでの個人情報漏洩とか誹謗中傷といったことが、この田布施町においても見られるようになってきた。

(3) 生徒指導上の今後の取組について

①の携帯、スマホ、ゲーム等メディアの使用というのが挙げられる。中学校が中心だが、この2学期から、中間テスト・期末テストのときに、中学校がノーメディアウィークを実施している。テスト期間中は、メディアに関するもの(携帯・スマホ・ゲーム・テレビ等)を一切見ない。使用しないという呼びかけを行っている。それに小学校の方にも呼びかけがかかって、小学校はノーメディアデイを作ろうということになり、中学校のテスト週間に合わせて行っている。これは保護者からも非常に評判が良いようである。

②の不登校児童生徒だが、本町では、今、小学校も中学校も不登校というのが非常に切実な問題になってきている。そこで、専門機関のSC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)との連携を強化し、早期発見は基より、一人でも児童生徒が登校できるような対策をしている。

③の防犯パトロール隊との連携について、不審者への対応、登下校の安全確保等について大変お世話になっている。不審者情報については、関係各課及び防犯パトロール等に連絡させていただき守っていただいているという状況である。

④の幼保小中連携会議について、年3回行っている。これについては、幼保小中の連携した生活規律、学習規律の確立が必要だと思われるので、今後も続けていけたら良いと思っている。

○町長 今、説明いただいたが、これよりご質問等伺いたい。通していったので随分量があったが、どんなことでもいいので願います。どうぞ。

●金長委員 教育委員会でも去年あたりから議論した「教育の品質保証」について、考え方、ネーミングも含めて議論し、そういう方向で事を進めていただくということで理解は十分しているつもりだ。平均点が上がったという話もあったが、保護者の印象とい

うかイメージというかその辺はどうか。アバウトで結構だが。

- 指導主事 各学校でもいろいろ成長診断のテストをやっており、最終的には学力を保証するという意味においては、保護者にも好評であると思われる。
- 教育長 これは今まさに言われている田布施が一番メインに推し進めていることで、学力を何とか保っているのは、一番はここだと思う。成長診断テストというのは日々の学習の習慣化、学校で習慣化されるということ。これを家庭にもっていけばすごい学力になる。まだまだ道は遠いが、そういう気持ちである。
- 櫻井委員 全国学習状況調査が4月に行われる。そして先般10月26日には県の学力定着状況確認問題が行われたと思う。4月にも県の学力定着状況確認問題は行われた。全国学力学習状況調査と県の学力定着状況確認問題の関わりというか、特徴的なことを教えていただきたい。
- 指導主事 この2つについては、基礎学力的なものと応用・活用してやるものと両方の問題が含まれている。全国学力学習状況調査では、国語も算数（数学）もA問題、B問題があり、A問題は基礎学力、B問題は活用力を問われる問題となっている。県の確認問題についても、全国のこの調査を意識して、両方の問題が必ず入っている。子供の学力を先程検証サイクルと言ったが、全国学力学習状況調査は小6と中3なので、そのほかの学年について学力を見ていって、何ができていて何ができていないのかということによって県が年2回ほど実施している。
- 櫻井委員 県の状況確認問題は何年生と何年生だったか。
- 指導主事 4月においては、小3から小5、中1、中2、10月においては、小3から小6、中1、2年である。3年生については、10月は行わない。
- 谷委員 A問題とB問題があるが、例えば小学校28年度の平均正答率+4.7ポイントというのは、A問題とB問題の平均か。
- 指導主事 説明不足であった。A問題とB問題の平均値、それも国語と算数を全部足してである。
- 谷委員 私が一番課題としたいのは、いわゆる基礎というA問題もありながら、B問題の活用力をいかにつけていくかが大きな課題だと思う。学んだ力と学んでいこうとする力を分けて捉えていこうという考え方がある。学んだ力というのは、基礎学力の結果。もう一つの学んでいこうとする力、様々な課題を解決していこうとする力、追究力とか探究力、学ぶ意欲の持続性というようなものが非常に大切になってくる。本当の意味での学習解決力、生きていく力にもつながると思う。その辺のポイントを上げる手法になっていかないと本当の学力になっていかない。結果だけあがるということになる。伸びやかな学びの力がこれからの社会に対応していく本当の意味の基礎学力になるのではないかと思う。
- 2ページ目の授業改善。今更という気もするが、言語活動、対話力、この辺も合わせて、教え込みでなくて、子ども主体の創造的な問題解決力が身につくような授業方法を田布施町としては進めてほしいと思う。
- 町長 他にないか。ないようなら、次に進ましてもらおう。
- 金長委員 生活指導の方だが、印象に残ったのはスマホや何かを持たせないということだが、一方で賛成、一方で反対なのだが。山口県19市町でこういうのを打ち出しているのが、他にあるのか、ないのか。
- 指導主事 承知していない。

○教育長 全国ではあるが、山口県ではないと思う。

(2) 田布施中学校大規模改修について

○町長 それでは、2点目の中学校大規模改修工事についてに入りたいと思う。事務局、説明よろしく願います。

○学校教育課長 田布施中学校大規模改修工事について、資料として2枚のものを取り揃えさせてもらっている。以前にもお配りした、29年、30年、31年計画に、28年を入れさせていただいた。28年度国の補助補正があり、空調設備工事の工事と業務委託費用で7,652万7千円を12月補正で予算計上予定である。1月から3月までに設計をして、工事を5月の中旬から始めて、夏休み期間中に工事を終えたいと考えている。空調設備工事箇所は、1年生、2年生、3年生の普通教室と職員室、校長室である。

○町長 先のこの会でも、中学校の改修を含めてご審議いただいたが、議会の方、空調設備の整備を早めて進めていただきたいという思いがある。ただ、予算の関係を大変苦慮しているが、子供の教育のことなので、できるだけ環境整備を行いたい。先ほどあったように勉強する環境というのが、相当影響があるという話を聞いている。私ども家ではクーラーをつけている。勉強のために、学校だってそうするとみんなが言えるようになるというのだが。家庭と学校が一体となって、勉強する環境を整えていきたい。先に予算の話があったが、いくらだったか。

○学校教育課長 繰越事業とし29年にまたがるが、設計監理と工事合計で7,652万7千円を28年度予算にあげさせてもらっている。

○町長 これ以外にもやらなければいけない事業が沢山あるが、一つ一つ環境整備にむけて進めていく。何か意見はないか。

●櫻井委員 前回の洋式トイレの件で、新聞を見ると、全国学校での洋式トイレの整備率にくらべ、山口県が極めて低い。田布施町の学校における洋式トイレの設置率はいくらか。

○学校教育課長補佐兼係長

6対4で、6が和である。4が洋式である。麻郷小学校が新しくなり、これが大きい。

●櫻井委員 小学校でいくと、何パーセントが洋式化されているか。

○学校教育課長補佐兼係長

先ほど、小中あわせて言ったが、小学校の方が割合は高いと思う。麻郷小学校が全体を上げている。

●櫻井委員 小中合わせて6対4ということは洋式化率は何パーセントになるのか。

○学校教育課長補佐兼係長

40パーセントである。

○学校教育課長 麻郷小学校を全部洋式にしている。東小の新しい校舎は各便所に女子便所は2つ、男子便所は1つ洋式にしている。主には麻郷小学校、東小学校が充実している。他の小学校に関しては、ほとんど和便器となっている。中学校も洋便器が少ないが、各階には1つずつある。

●金長委員 城南小、西小にもあるか。

○学校教育課長 城南小1、西小が6だったと思う。

○町長 建築年度によって変わる。古い建物は少ない、全部はできないが、今の時代にに応じて各便所に1か所か2か所かという思いでやっている。どこの学校にも設置するが、

麻郷小学校のように建て替えれば出来る。山口県の整備率が悪いのは、山口県が早くから学校を整備したため、それが逆に整備率が悪い要因になっている状況である。
他にあるか。

(3) H29年度重要施策について

○町長 それでは、提出事項の3番目の「平成29年度重要施策について」協議をさせていただく。協議させていただく内容は3点あるようなので、事務局は簡潔に説明をお願いします。

 それでは、1点目の「指導主事・社会教育主事について」説明をお願いします。

○学校教育課長 1点目の指導主事・社会教育主事について、平成28年度までは、充て指導主事と派遣社会教育主事の2名体制できている。教育委員会の要望だが、29年度からは、充て指導主事と派遣指導主事、派遣社会教育主事の3名体制としたい。指導主事からも話があったように、特別支援教室の充実ということで、27年から充実させてきた。また、新たにコミュニティ・スクールができ、さらに不登校、いじめの対応が年々難しくなっている。再来年度からは道徳が教科となり、また、小学校では英語授業の充実、プログラミング授業が始まる等、新たな教科が始まることもあり、指導主事をもう1名お願いしたい。これは、県の派遣になり、町は負担金を県に支払うこととなる。田布施町ではこれまで1人体制で指導してもらってきたが、いままでの体制では、維持できなくなってくるのが予想されるため、派遣指導主事を1名増やしていただきたい。

○町長 このことについて、意見はあるか。

 先般、予算要求があがってきており、町も了解している。教育長からも担当の所管からも聞いている。新年度以降の学校の充実のため、予算を組んでいこうと考えている。

●金長委員 よろしくをお願いします。

●櫻井委員 学校教育課に配置されている指導主事は充て指導主事か。

○指導主事 そうである。

●櫻井委員 充て指導主事は県費負担だが、派遣指導主事は町が負担金を出すのか。

○学校教育課長 そうである。

●櫻井委員 他の市町もそういう傾向か。

○教育長 町では周防大島町に派遣がいる。充て指導主事は教員の身分で教育委員会に入り、給与も教員の給料である。本町では去年から教頭格を配置していただいている。来年度も予定だが、今年度と同様に教頭格の教員の充て指導主事1名と、新たに町の持ち出しとなるが派遣指導主事をお願いしたい。業務内容が多岐にわたり専門性になっており、町の職員では指導業務はなじまない。他の町については、学校数も少ないので、そういった動きは聞いていない。田布施については、他の町に比べ児童数、生徒数の規模が数段大きい。教員数も100人に近い。町の財政もあるが、派遣指導主事を是非お願いしたい。

○町長 よろしいか。

 では、次にうつる。

○学校教育課長補佐兼係長

教員補助者・通級指導教室（幼児対応）について、まず、教員補助者について、平成27年度から6名体制から8名体制にしている。各小学校2名体制で教員補助者をつけているが、普通学級で配慮を要する子供が多い。特別支援学級があり、それに対する補助ということで、運用については、それぞれの小学校に任せている。中学校には教員補助者を配置していないが、現在の6年生が進学し、情緒、知的が5人増える。3年生が2人減るが、特別支援学級はこれまでの倍以上に増えるので、中学校にも特別支援学級の教員補助者が必要になると考えているが、今後、検討していただきたい。

次に幼児通級指導について、本町では、中学校に通級指導教室、麻郷小学校にことばの教室があり、本年度からことばの教室に常勤がつき活用されている。現在20名の児童がことばの教室に通っているが、幼児の対応ができていない。柳井市には幼児に対応した教室があり、昨年度2名の幼児が通っていた。本年度は予算は計上していたが、該当者がいなかった。来年度については、1名対象者がいると考えているので、できれば麻郷小学校の通級教室で対応したいと考えている。5歳児発達相談の中で保健センターとも連携している。来年度以降に、ことばの教室を幼児に対応した教室としたいと考えており、教員ではなく、保育士が必要になると考えている。今後、体制づくりをしていきたい。幼児を通級指導教室に通わせ、小学校、中学校へとつなげていきたいと考えている。

○町長 他に、何かないか。

特別支援学校の高等部が旧工業高校に移ると、先般県から連絡があった。先生100人生徒100人の規模。高等部ともなると、社会に出て対応できるようにということで指導されているが、小学部・中学部・高学部がうまくつながっていかないと、なかなか難しいということと話されていた。連携して、小・中・高とあがっていかないといけない。相談できる体制づくりをしていかないといけないと思っている。

それでは3番目の説明をお願いします。

○学校教育課長補佐兼係長

小学校の教室の環境整備について、平成25年度に西小学校の職員室、校長室、事務室の空調を整備した。26年に東小学校、城南小学校の職員室、校長室、事務室の空調を整備した。25年には東小の難聴教室を整備した。昨年度は麻郷小学校ことばの教室を整備した。28年度は中学校の普通教室、職員室、校長室に空調を整備していく。昨年度、西小学校の普通教室の3教室に扇風機を整備、中学校も3年生の5クラスに扇風機を整備した。地球温暖化等環境が変わってきており、各小学校、PTAから扇風機の設置の要望がある。今後年次的な扇風機を整備を検討していきたい。各学校でコミュニティ・スクールが始まり備品の整備の要望があるので、検討していきたい。

○町長 コミュニティ・スクールからの要望は各学校で整理するように。

●金長委員 今、学校ではストーブを使っているか。

○学校教育課長 小学校でファンヒーターを使っている。中学校はない。

○町長 他にないか。無いようなら、今まで以外の件で何かないか。

○総務企画課長 委員さんからの意見が無いようなので、これでこの会を終了する。

平成28年度については、今回の会議で終了予定である。平成29年度に年2回程度(6月までと11月頃)を予定したい。今後とも、よろしく願います。

【閉会】